

今後の取組～本町まちづくり協議会(仮称)と市の連携～

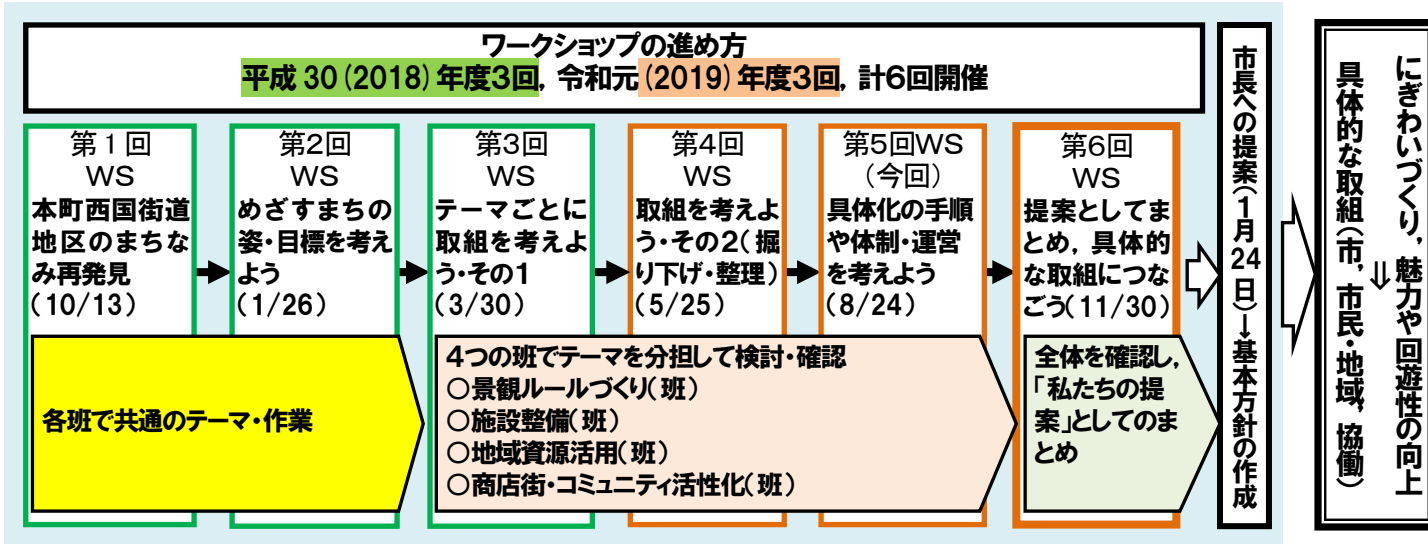
- まちなみづくり基本方針報告会の開催
 - ・「私たちの提案」を踏まえ、まちなみづくり基本方針を作成
 - ・報告会は令和2年(2020)3月に開催予定
- 市民による本町まちづくり協議会(仮称)の設立を支援
 - ・P2の右下の「全体的な推進体制(組織)のイメージ」を参照
- 市民と行政が協調しながら、プロジェクトの具体化を目指す
 - ・当面の課題である景観ルールづくりへの市の支援
 - ・本町通り(西国街道)の再整備などの事業化に向けた取組
 - 事業の必要性や効果を検討、国への働きかけや市民の合意形成、景観ルールづくり

アドバイザー・オブザーバーのコメント

<まとめのコメント(要旨)>

- 吉田 倫子 先生
- ・協議会ができ、修景の部会ができ、相談窓口が動き出すのは1年、2年と時間があるかと思うが、それまでに新築などが建てられることもある。その際にデザインというのは重要になる。大きなデザインは少し緩くても大丈夫であり、色で違和感を抑えることもできるので、けばけばしい色じゃないようお願いしていくことも大事。
 - ・一方で、小さい物(案内板、広告物など)のデザインにこだわりを持ち、統一していくことを考えて欲しい。
 - ・若い力を取り込むこと、SNSなどを活用して若い人に来てもらい情報発信してもらい、自分たちで活動を情報発信していく、チラシなども大事ではあるが、対象は世界の人なのだという意気で取り組むとよい。
- 橋本 敬一 先生
- ・街並み景観は統一感が大事になる。地元業者が設計建設する場合はある程度の統一感が出ている。
 - ・欧州では統一的な街並みで俯瞰するときれいだが、近年はアメリカ的でバラバラのデザインになっている感じ。
 - ・野畑山は見る角度により妙正寺山や宗光寺山など、違う名称で呼ばれている。固定観念を持たず、融通を利かせることも大切になる。
- 滝口 隆久 氏
- ・今回、出来上がったものは宝になる。この宝を現実にしていくのが本町の組織の役割であり、住民の連携となる。
 - ・この宝の実現に多くの人を巻き込むことができれば、魅力ができ住みやすいまちになるのではないかと感じた。
 - ・難しく考えず、その都度で変わる部分もあるかと思うが、目標を目指して具現化できるとよい。

【ワークショップの展開】



問い合わせ・連絡先

〒723-8601 三原市港町三丁目5番1号
三原市 都市部 都市開発課 担当：奥広、西村
電話：(0848) 67-6113 FAX：(0848) 64-6057
E-mail：toshikaihatsu@city.mihara.hiroshima.jp
～まちなみづくり(まちづくり)に関わるご意見なども、お寄せください～

本町西国街道地区 まちなみづくり通信 第6号
～『にぎわいのある街道の再生、地区の魅力や回遊性の向上』をめざして～
令和元年(2019)12月 発行：三原市都市部都市開発課

本町西国街道地区において、にぎわいのある街道の再生、地区の魅力や回遊性の向上(地区の魅力づくりと活性化)をめざし、11月30日(土)に6回目(最終)のワークショップを開催しました。

今回のワークショップでは、これまで話し合ってきたことを「私たちの提案」としてまとめました。年明けの1月24日(金)には代表(6人を予定)が、天満三原市長に提案します。

第6回ワークショップのプログラム等(要点)

日時：令和元年(2019)11月30日(土) 14:00～17:00 会場：三原市役所 8階 会議室
参加者：住民・関係団体の皆さん22人、アドバイザー・オブザーバー3人、広島県2人、三原市10人、進行役4人、見学者1人、報道機関2人

はじめに

- これまでの振り返りと成果
- 今日の進め方・内容
- アドバイザー・オブザーバーのコメント
 - 吉田 倫子 先生：県立広島大学保健福祉学部 講師
 - 橋本 敬一 先生：三原市文化財協会 会長
 - 滝口 隆久 氏：(株)まちづくり三原 統括マネージャー
- 視察研修の報告
 - 視察地：府中市出口地区、上下地区
 - 視察日：令和元年10月31日(木)
 - 参加者：18人
- 各班で代表者2人を選任…市長への提案を担当(出席)



府中市出口町の視察報告

府中市上下町の視察報告

「私たちの提案」の内容を確認し、具体的な取組につなぎましょう!

- 下記の内容について、進行役が案を説明し話し合いました。
- 「私たちの提案」の提案文(はじめに)とワークショップの開催経過、提案の骨子
 - ※提案者はワークショップメンバー、提案先は三原市(三原市長)
 - めざすまちの姿(将来像)、将来イメージ
 - 4つのテーマによるプロジェクトと取組
 - ・景観ルールづくり
 - ・施設整備
 - ・地域資源活用
 - ・商店街・コミュニティ活性化
 - 全体的な推進体制
 - ・参加者から、本町まちづくり協議組織案が説明(提案)



会場風景



参加者による組織案の説明

ワークショップのまとめと今後の展開

- 本日及びこれまでのまとめ(アドバイザー、オブザーバーのコメント)
- 今後の取組
 - ・本町まちづくり協議会(仮称)と市の連携
- 参加者のみなさんの所感
 - ・参加者全員に話していただきました。
- あいさつ⇒終了



参加者のみなさん一人ひとりの所感

本町の現状、課題
及びまちづくりの方向性

本町の現状

- ①人口(国勢調査)
三原市:H12年 106千人
→H27年 96千人(9.4%減)
本町(全体):H12年 1,593人
→H27年 1,270人(20.3%減少)
- ②高齢化率(国勢調査)
三原市の人口に占める65歳以上の割合:H27年 32.7%
本町の人口に占める65歳以上の割合:H27年 41%
- ③歴史的建築物等の状況(県立広島大学 吉田研究室調査)
戦前に建てられた歴史的建築物が276件、工作物・環境物件が64件
- ④空き家の状況
三原地域の空き家率:9.4%
本町(全体)の空き家率:14.0%

まちづくりの方向性

城下町の歴史文化や三原駅・三原内港に近接した交通利便性など本町の強みを活かし、住環境の改善と魅力の向上に取り組むことで、定住促進とにぎわいの再生をめざします。

めざすまちの姿(将来像)
浮城に臨む瀬戸のまほろば
西国街道・三原本町

～住みよさ実感・街のにぎわい・未来につづくまち～

本町地区の歴史文化や新たに創出される特色など有形、無形の資源を活かして地区の魅力向上しながら、歴史的街並みと調和した快適な歩行環境などを整備することで『歩いて暮らせるにぎわいあるまち、そして温もりにあふれ住みよさを実感できるまち』をめざします。

※まほろば
素晴らしい場所、住みやすい場所という意味の日本の古語。古事記に「真秀ろば」のある歌があります。
素晴らしい場所には「にぎわい」や「魅力」などを含みます。

※まちなみ
建物や道路をはじめとした物的な環境・景観(街並み)とともに、そこで営まれている暮らしや産業(人々の営み・活動)を含めて捉えます。

※街並み
建物や道路をはじめとした物的な環境・景観に限定する場合、「街並み」と表現します。

【テーマ1】の目標

- 景観ルールづくり(班)
【景観づくりの目標】
本町らしさを感じる街並みを
守り・創り・引き継ごう
～様々な建物などが共存・調和
する魅力づくり～
- 施設整備(班)
【施設整備の目標】
まちなみを支える施設を、
地域と行政が連携してつこう
- 地域資源活用(班)
【地域資源活用の目標】
“本町の歴史、生活文化の再発見と発信”
多彩な資源を活かし、人の集う
まちをつこう
- 商店街・コミュニティ活性化(班)
【商店街・コミュニティ活性化の目標】
人とまちが元気で、笑顔あふれる
本町をつこう

プロジェクト	
プロジェクト(大分類)	取組の主要事項(中分類) ※中分類を構成する取組を設定しています
1 街並み景観づくり プロジェクト	景観ルールづくり
	管理・普及
	相談・支援
	景観整備 眺望景観
2 施設整備・魅力づくり プロジェクト	本町通り(西国街道)再整備 小路・参道魅力づくり・ネットワーク
	公園・広場魅力化
	案内・交流・サイン整備
3 寺社活用・歴史文化体験 プロジェクト	寺社活用
	歴史文化の記録・発見・活用
4 本町まるごと体験・発信 プロジェクト	四季の行事
	生活文化体験・発信
	本町周遊 本町情報発信
5 町家&空き家・空き地活用 プロジェクト	町家活用
	空き家・空き地活用
6 観光・交流と商店街活性化 プロジェクト	観光・交流
	商店街活性化
7 安全・安心と健康のまちづくり プロジェクト	安全・安心
	健康づくり
	環境美化

本町の課題

- 人口減少・高齢化に伴うコミュニティの弱体化への対応
・市全体と比較して急速に人口減少、高齢化が進行
- まちの空洞化による魅力の低下と環境の悪化への対応
・空き家や空き地、空き店舗が増加して、まちの魅力とにぎわいが低下
- 多彩な地域資源の活用
・数多くの歴史的建築物や環境物件、生活文化等の活用の期待

<参加者の意見>

- ・石畳風ではなく、平面で歩行者・車いす、自転車などが通りやすい舗装にする
- ・耐久性のある舗装

<将来イメージ>

3か所をモデルに、将来イメージを作成しました。道路・道、水路の整備と沿道の修景などを取り上げています。



本町通り(西国街道)の将来イメージ



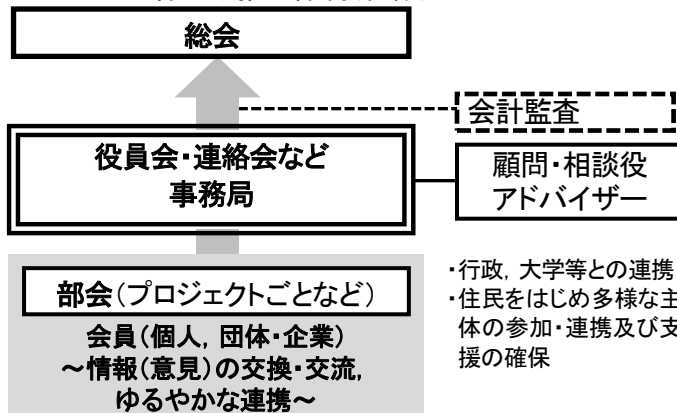
宗光寺小路の将来イメージ



阿房坂の将来イメージ

全体的な推進体制(担い手・体制づくり、交流・連携)
西国街道のプロジェクトを契機に、さらなる本町地区の住民の絆を高め、
生活しやすい
歴史文化の豊かな
住みたいとあこがれられる
まちをつくることに持続的に取り組む組織

<全体的な推進体制(組織)のイメージ>



※通りのイメージがより表現できるよう、一部、実際の建物の配置とは異なる形で組み合わせています。